

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ



五十代からの大学生生活、 そして国試挑戦

通信教育部社会福祉学科卒業生

今

威

1. はじめに

私は今年54歳、2022年に通信教育部社会福祉学科3学年に編入をし、2025年3月に卒業、そして精神保健福祉士の資格を取得しました。

これまでは福祉とは無縁の職で過ごしてきましたが、2021年に障がい者雇用で2年間携わることとなり、福祉と向き合うこととなりました。それを機に精神保健福祉士の資格取得を志向し、仕事をしながらキャリアアップを目指せる東北福祉大学へ入学しました。

2. 約30年ぶりの大学ライフ

約30年ぶりの大学生。通信とはいえ、教科書の量は通学生と同じ分量で送られてきます。最初はその多さに戸惑いを感じ、圧倒されます。これを読んでいくのかと思うと身震いをしたことを覚えています。

私は勤務先へは電車とバスで片道2時間弱かかります。この時間を活用しない手はない！と思い、教科書や参考図書、オンデマンドスクリーングを受講していました。電車やバスに乗りながらレジュメと映像を見てマーカーでポイントをチェックしたり、板書を書き取ったりすることは揺れとの闘いだったと記憶しています。家での学習は主に土日のどちらかに行っていました。片方を学びの時間に、もう片方はリラックスの時間としてメリハリをつけた学習に心がけていました。

レポートの作成はレジュメを中心にしていました。インターネットも活用し、厚生労働省のホームページなどは特に閲覧をしていました。レポー

ト作成では「自分のことば」で書き上げることを心がけました。何に感銘したか、注目したかなど、自分の言葉でないと読み手に伝わらないと思ったからです。とはいえ、レポートは溜まりやすい課題でもあり、最終学年まで手付かずのものもありました。時には有給休暇を取得して、一気に数本書き上げたこともあります。常に計画的に、といってもこればかりはうまくいかないもので、その時の「気分」がレポートへの意欲を掻き立てることになるでしょう。

3. スクーリングのススメ

通信制、といえば自学自習的なもの、とも思いますが、オンデマンドを含めてスクーリングには参加したほうが良いと思いました。

オンデマンドスクーリングは映像を通して先生方の空気感、思いが伝わる良い刺激を受けるものでした。前述の通り、私は通勤時間と休日が主な勉強時間であったので、コマごとに時間を区切って学ぶことができ、自分のペースを保つことができました。

私は青森から仙台のキャンパスにスクーリングを受けに何度か往復しました。教科書での勉強に比べ、「ライブ感」を得られるスクーリングは刺激になりました。特に印象に残っているのは、初めて参加したスクーリング、菅原好秀先生の「権利擁護を支える法制度」の授業でしたが、2日間の「板書攻撃」にタジタジとなりながらも書き終えた時の達成感、そのままスクーリングテストへ突入した時の鉛筆の滑らかな滑り具合に快感を覚えたものです。書くことは覚えること、いまでも授業の内容は記憶に残っています。また「よく学びよく遊び」の精神で、スクーリング一日目の夜は横丁へ通ったものです。また、東口キャンパス1階のカフェ（学食）のランチも楽しみで、いろんな年代の受講生の皆さんと会話しながら食事をする楽しみもありました。「学び」は勉強だけではなく、いろんな社会の

空を感じることも大事なエッセンスだと私は思います。

4. 実習と国家試験へ向けた取り組み

大学での学びの目標が「精神保健福祉士」資格取得であったため、特にそのカリキュラムに力を入れました。2回の実習ではB型就労支援施設と精神科病院でお世話になりましたが、その場では自己覚知の重要性をはじめとしたさまざまな学びに出会いました。そして後述しますが人生の転機にもなる出来事にもつながりました。

国試対策講座は三城大介先生の5か月間の直前講座を中心に、ワークブックや過去問題を中心に取り組みました。三城先生の直前講座は覚えることよりも理解することを主眼とした内容で、単なる暗記ではなく、関連付けて覚えられるような構成で半日間の内容があっという間な感じでした。三城先生の「国試は連想ゲーム」という言葉はなるほどのをえたものだと言ったと国試受験後に思いました。ただ、悔やまれるのは、直前講座はすべてオンデマンドでの受講で、ライブでの受講をしなかったことでした。

国試直前はYouTubeで配信されている様々な直前対策も視聴しながら取り組みました。特に一問一答のコンテンツは試験会場へ向かう新幹線や宿泊先で流しっぱなしにして、記憶に焼き付ける「仕上げ」をして臨みました。

試験結果はボーダーぎりぎりの得点で合格発表まで気をもむ毎日でした。合格した時の達成感や充実感はいまでも反芻して味わいたいくらいの気持ちでした。三城先生や大学の皆さま、一緒に臨んだ学友、そして家族、スクーリングの都度お参りをした榴岡天満宮のおかげと感謝しています。

5. さいごに

3月の卒業式は国見キャンパスに赴きました。共に学び、国試を戦った仲間との時間は有意義に、30数年ぶりに感動を得ることができました。解散前に東口キャンパスで記念写真を撮った思い出は、いままでも、これからも大事な宝物になっていくことでしょう。

そして、精神保健福祉士の資格を得て、私の人生が大きく変わろうとしています。私は来年で55歳、人生の一区切りと考え、セカンドキャリア向けての準備もできたと思っています。

学びを初めて3年間、楽しいことのほうが思い出として残っています。「明るく！楽しく！元気よく！」学びと向き合うこと、皆さんに僭越ながらアドバイスをするとすればこれに尽きると思います。

最後に、教員やスタッフなど通信教育部の皆さまには大変お世話になりました。あらためて御礼を申し上げます。

そして、拙い文章を最後までお読みいただき、ありがとうございました。

